

## GP Solution Case Study



今回は、廃棄物処理サービスを長年のご利用いただいております  
大牟田リサイクル発電様にインタビューしました！

### クライアントDATA

取締役所長 須賀 伸也 様(右)  
総務課長 野田 博昭 様(左)  
松本 香織 様(中央)

会社名: 大牟田リサイクル発電株式会社  
所在地: 福岡県大牟田市健老町472番地  
設立: 1999年  
事業内容: 一般廃棄物由来の固形燃料発電事業

### 事例紹介

廃棄物固形燃料発電所としてスタートした大牟田リサイクル発電様は、新しい社会インフラとして、環境負荷の低減と循環型社会の両立を追求されてきました。 ※以下、敬称略

### BEFORE

#### ダイオキシン類対策の 先駆的な取組を実現

— 大牟田リサイクル発電所ができた  
きっかけは？

1990年代後半、焼却で発生するダイオキシン対策は喫緊の課題でした。しかし、小規模市町村が単独でその影響に対応することは、費用や規模の兼ね合いから難しいことでした。また、日本の近代化を支えた三井三池炭鉱があった大牟田市は、1997年の炭鉱閉山後の振興策としてエコタウン事業を検討していました。

このような事象が重なり、かねてより実証実験を重ねていたRDF(ごみ固形燃料)発電を行うプラントが設立されることになりました。



— 発電所の特徴を教えてください。

福岡県及び熊本県内の計21市町村から発生する家庭ごみを加工したRDFが当発電所に集まり、焼却発電しております。

広域的な収集を行うことで、単独の自治体で困難であったダイオキシン対策が実現できています。RDFは発熱量が高いことから、高効率な発電が実現でき、新電力様に売電しています。送電電力は一般家庭の約30,000世帯分です。

### SOLUTION

#### 当社理念に共感頂き 事業全体のリサイクルへ

— 稼働後の課題はありましたか？

RDF焼却後に発生する灰の処理です。稼働当初、路盤材等への有効利用の計画が実現できず、最終処分場で処理していました。しかし、私たちの大切な概念は、社名にもある「リサイクル」です。埋立場の余命もある中、このままではいけないと考えていました。

— Green propを選んだ理由は？

発生する灰をセメント原料としてリサイクルするご提案を頂き、Green propとの取引がスタートしました。合わせて、安定・確実に処理できる環境として当社専属の運搬部隊も整備頂き、安心して任せています。

その後も新たなリサイクルフローの構築にお力添えを頂き、当社の理念をご理解いただいているパートナーとして長年共に歩んでいただいています。



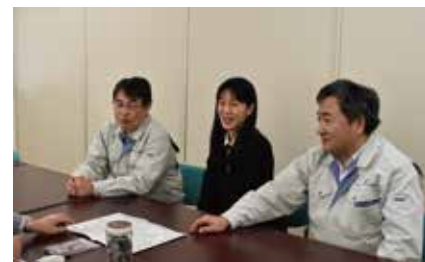
### AFTER & NEXT

#### 持続可能な地域づくりの 重要なファクターに期待

— Green propに今後期待することはありますか？

報道等でご存知の方もいらっしゃると思いますが、当事業は2022年に終了となります。まずは最後まで、確実に適正な廃棄物処理を願います。

現在のリサイクルスキームの確実な実施と、新たな手法の情報発信もしていただけることを期待しています。利害関係者に、有効かつ確実な処理をマネジメントする、新たなファクターとして期待しています。



### GP担当者より

企業理念を深く理解し、事業に反映されている点に感銘を受けました。RDF発電処理という先駆的な取組で長年けん引されてきたことに感謝し、必ず次の持続可能な地域の形を実現することに、更に邁進していきます。

専務取締役  
川添 憲二



いまさら聞けない…

# 環境・CSRのギモン?

TSUBASA FUKUZAKI



CS業務課 福崎 翼

2016年入社。現在CS業務課で廃棄物を中心としたお客様の課題解決に奮闘中。2016年にCSRリーダー取得。社内CSR活動でも持ち前の笑顔で活躍している。

今回のテーマ ▶ SDGs

## SDGsって?

SDGsとは、Sustainable Development Goalsの頭文字を取った言葉で、「世界中の皆で目指す、持続的な社会・地球環境を構築するための目標」です。

2001年に貧困や環境問題に対して策定されたMDGs(ミレニアム開発目標)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択されました。

先進国も途上国も取り組むもので、持続可能な世界を実現するための17の大きな目標とそれらを達成するための具体的な169の目標から構成されています。2016年から2030年までの国際目標として、地球上の「誰一人として取り残さない」ことを誓っています。

日本政府は、SDGs実施指針にて「民間セクターが公的課題の解決に貢献することが決定的に重要」と明記し取組を後押ししていること、またピコ太郎さんがSDGsのPPAPバージョンを、国連で披露したことで社会的な関心が非常に高まっています!

## 企業がSDGsに取り組むわけ

企業は、SDGsに取り組むことで、新たな事業成長の機会を見出しステークホルダーとの関係を強化し、自社の価値を保護・創造することができます。その成果は、ESG投資の評価軸としても活用される等、多様なメリットを得ることが期待できます。



## GP Topics Green propの最新ニュースをご紹介します

### ① CSR日韓共同カンファレンスで事例発表しました!

2017年10月30日、韓国の大邱広域市で開催された「CSR日韓共同カンファレンス」(主催:大邱持続可能発展協議会)にて、当社の丸山(英国CMI認定CSRプラクティショナー資格保持者)が事例発表をさせていただきました。「大邱型CSRシステム構築に向けた日本CSR拡散システム大解剖」と銘打ち、日本から4名が登壇。丸山からは「企業のCSR定着に向けた[新]CSR検定の活用」と題し、当社で福岡事務局をしている[新]CSR検定の概要や企業における検定活用事例を紹介しました。

韓国では約9割が中小企業ということで、CSRを持続的かつ戦略的経営の手法として取り組む日本の発表に、高い関心を持って頂きました。



### ② 本社社屋をリニューアルしました!

現在の社屋に移転して約13年、歴史を共に刻んできた社屋の改修を行いました。細部に渡り点検を行い、補修とともに塗装も実施しました。屋根はブラウンに、外壁はグレーへとリニューアルしています!

長期間の補修工事を通じて、これまで共に歩んできた社屋に改めて感謝し、これからも長く愛される会社を目指して、大切にしていきたいと思えます。

本社にお越しの際は、生まれ変わった社屋を是非ご覧ください!



## 川添克子の編集後記

2017年11月に機会を頂き台湾に訪問しました。台湾では脱原発を政府が唱え、再生可能エネルギーで自給率を向上させ、2025年までに全体の20%にするという目標を掲げています。日本と似た環境ですが、国内への目標浸透を考えると、一歩も二歩も持続可能な未来を見据えているように感じました。

2018年がスタートし、今年は「年女」です。次回の年女は2030年、SDGsのゴール年でもあります。この12年間で持続可能な世界を必ずや開拓していくために、本年も邁進して行きます。今年も何卒宜しくお願い申し上げます。

代表取締役 川添 克子



# 株式会社 Green prop

0120-52-0589

info@greenprop.jp

本社:福岡県筑紫野市大字永岡1272番地14  
福岡支店:福岡県福岡市博多区博多駅東2-10-16-3F  
中国支店:広島県大竹市北栄4-12  
東京営業所:東京都中央区日本橋1-2-10 東洋ビル5F

WEBサイト

Facebook

